第一分科会『他団体とのモデル事業発表』

やまがた公益プロジェクト
モデル事業発表

日時：７月１１日（日）　１３：３０～

会場：東根市さくらんぼタントクルセンター

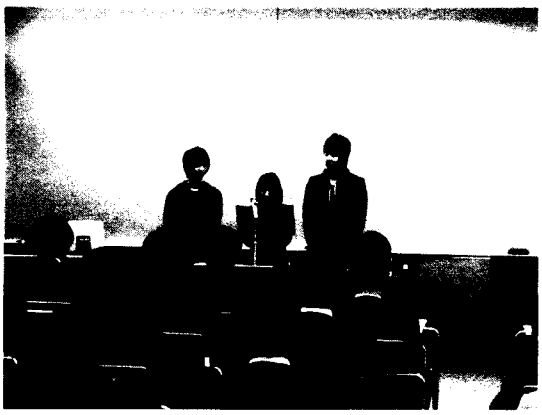
◎やまがた公益プロジェクトとは・・・

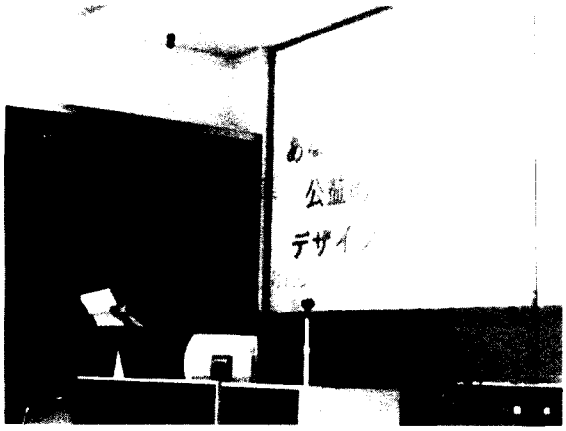
青年会議所（JC）・山形銀行・東北公益文科大学が協力、協働して「地域に何ができるのか」「公益事業をどのように展開していくのが有効なのか」を、団体の垣根を越えて交流し研究していくプロジェクトとして発足しました。
公益大生とともに、これまでのＪＣの活動を振り返りながら、ＪＣの活動をもっと公益的な活動にするにはどうすればいいか、私たちにもできる「公益活動」とはどんなものか、こんな「公益活動」があったらいい、という思いを膨らませながら、事業案を検討してきました。

今年度はまた、実際に青年会議所が展開している「ふるさと OMOIYARI プロジェクト」（地域美化活動や JC 主催のイベントの企画運営）にも参画し、学生と JC メンバー、山形銀行の行員との交流をはかりながら、ともに活動を行ってきました。

◎これまでの経緯
2010 年 2 月２６日：発会式・第一回研究会
2010 年 4 月２３日：第二回研究会
2010 年 5 月２１日：第三回研究会
2010 年 7 月１１日：成果発表会

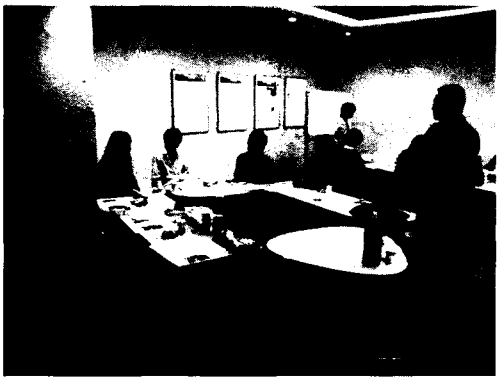
◎発会式の様子から





「やまがた公益プロジェクト」において研究したモデル事業の発表

Aチーム　「新しい分野からの車いすの周知イベントについて」



JC 矢吹さんをファシリテーターに企画案をまとめあげたAチーム。学生とのディスカッションで「車いすでF1みたいなことがやりたいね」という話題が持ち上がり、現在の車いす事情を周知するためにホビーや産業といった形から考えた事業の内容へと、練り上げていきました。

この企画で「世界規模へのイベントへ」と、夢は大きく広がります。

Bチーム　「ちょいの・り・サイクル」
自転車を使ってまちを回遊する仕組みづくり

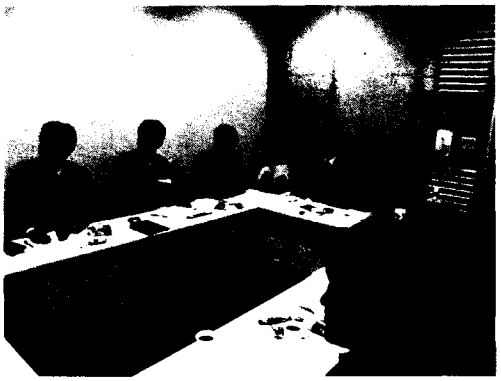
山形銀行川野さんがファシリテーターとなったBチーム。公益大の女子学生から「自転車を使ったもの」と「リサイクル」というキーワードがあがり、「回遊する仕組みづくり」に練り上げました。

学生との時間調整がうまくいかなかったりなど、時には学生なしで議論するときも…。今日のプレゼンテーションでは、学内のさまざまな人に協力いただいて完成した動画も用意しています。

「ちょいの・り・サイクル」

の世界を楽しんでください。

Cチーム　「みんなのための情報 BANK」
インターネットを利用した地域連携プロジェクト



情報に詳しい学生が多く、時にはみんなでツイッター体験してしまうこともあったCチーム。お菓子とお茶は欠かせないアイテムで、いつも賑やかでした。

「JCはすごくいい活動しているのに、あんまりその活動が知られていないね」「イベントの参加者が本当に知りたい情報ってなんだろう」という素朴な疑問から生まれた情報プロジェクト。「あなたの声をもっとききたい」山形銀行さんにも使えるツールとなるかも。

やまがた公益プロジェクト

公益プロジェクトＡチーム

1.事業に至る背景および目的

現在、車いすに対する一般的なイメージとして「障がい者にしか関係ないもの」「かわいそう」「医療器具」などのようなものがあげられ、デザインも面でも「かっこよくない」といったようなイメージが定着してしまっている印象がある。
しかし、実際の車いすを利用する人たちにとっては「自分の体の一部」といった認識で使用していること。また、メーカーによっては、機能面やデザインを重視したものもあり、拡張性などが高いのだが、一般の人にはあまり認知されていない。
このようなことから車いすを利用する人たちの心理状況として、「好奇の視線で見られるのが嫌だ」などがあり外出する機会を喪失しまっている。また認知されていない事によって車いすの市場がせまいことで車いすの単価が高価になってしまっている現状が問題としてある。この問題を改善するため、一般の人に知ってもらうにははどうしたらよいかと考えた際に、ホビーや産業といった形からアプローチできないかと考え今回の事業に至った。

2.内容

現在の車いす事情を周知するためにホビーや産業といった形から考えた事業の内容

①車いすのモータショー
- ・車いすの市場（中古車など）
- ・車いすのパーツ市場

②車いすのレース（電動）
- ・障害物レース
- ・マラソン（耐久レース）
- ・鬼ごっこ

3.会場・場所・日時

会場は天童運動公園などの屋外と屋内にある程度の広さを確保できる場所
日時においては、夏の連休などを３日ほどの期間とするのが理想である。

4.参加対象・参加員数計画

・車いすのメーカー、
・車いす事業に興味・関心のある一般企業、
・車いす利用者、車いす介護者、
など車いすに興味のある人

参加員数はできるだけ多い方がよいが、理想としては 1000 人くらいである。

5.事業名

Yamagata　Wheelchair Festival(車いす祭り)

6.広告方法・その他

・チームＣの事業
・WEB
・地元メディア
・マスコミ
など

7.事業により期待される効果

一般の人に車いすの理解を広げてもらる機会の創出。
車いすをホビーや産業としてとらえることでの車いすの従来イメージの払拭。
体力勝負ではなく車いすの性能を競うことでのメーカー対抗による車いすの性能向上。
モータショーを行うことでの車いす市場の拡大、それによる産業の創出。
モーターショーで市場を開くことの車いすの要介護者などへの普及。
イベント全体を通しての車いすを利用している方々への外出の機会を作る。

また、このイベントを行うことでの副産物として、車いすの方々が観光として訪れることでのバリアーフリーの配慮を意識した街の変化とそれによる新しい観光の創出。
などが事業によってもたらされるものとして考えられる。

ちょいの・り・サイクル

やまがた公益プロジェクトB班

目的

▼リサイクル、エコでまちおこし
▼イベントへの集客

→放置自転車（駅、大学など）、家庭にある使わなくなった自転車の利用
→イベント会場までの交通手段の見直し

企画（案）

自転車を使ってまちを回遊する仕組みづくり

「ちょいの・り・サイクル」

事業内容（案）①

▼レンタサイクルのデザイン
・誰でも気軽に利用できるようなデザイン
・東北芸術工科大学への委託
・ご当地キャラクターの取り入れ　など

→名物自転車の誕生！

事業内容（案）②

▼レンタサイクル設置場所
・JCI関連店、山形銀行各支店、1次交通との結節点

→移動の範囲が制限されない！

事業内容（案）③

▼レンタサイクルのメンテナンス
・定期的にまちの自転車屋さんに委託

▼乗り捨て自転車の移動
・シルバー人材への委託

→雇用の増加！

事業内容(案)④

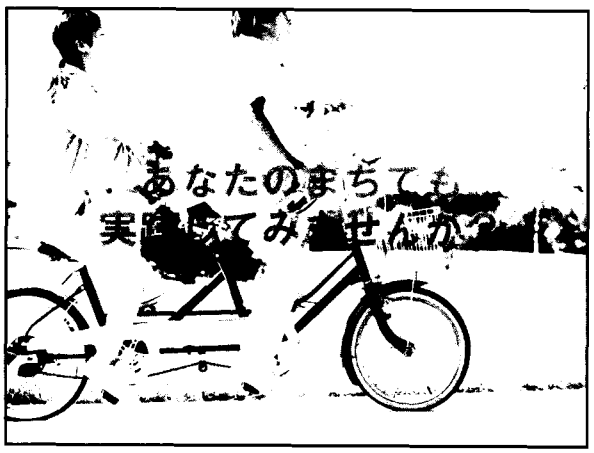
▼レンタサイクルの対象者の幅を広げる
- ・子供用自転車の設置
- ・変速付自転車の設置
- ・アシスト付自転車の設置

→家族で観光が楽しめる！

発展

▼レンタサイクルへの特典
- ・観光マップ(観光スポット、飲食店など)
- ・スタンプカード
- ・イベントの記念品

▼クロークサービス
- ・レンタサイクル利用者の荷物の預け入れ、宅配



インターネットを利用した地域連携プロジェクト

やまがた公益プロジェクトＣチーム

1.事業目的

青年会議所（以下 JC）の発案した企画などの認知度上昇を目的とし、なおかつ市民の意見を取り入れるとともに、活用方法を見出してゆく。主な方法としてＣチームはデータベースや Twitter を利用しての JC 活動補助、意見収集を目的として市民へ提供する。

2.背景

JC はさまざまな事業を展開しているものの、いまひとつ活動が認知されていないため次へと繋がりにくい現状がある。そのため活動を知らない人への広告が必須であり、さらに参加したくてもなかなか出来ない層の人たち（子育て中の人・高齢者・障がい者等）へ、どう働きかければ良いのかという問題が存在する。

その解決方法として、データベースと Twitter を利用しての意見の反映、活用が挙げられる。

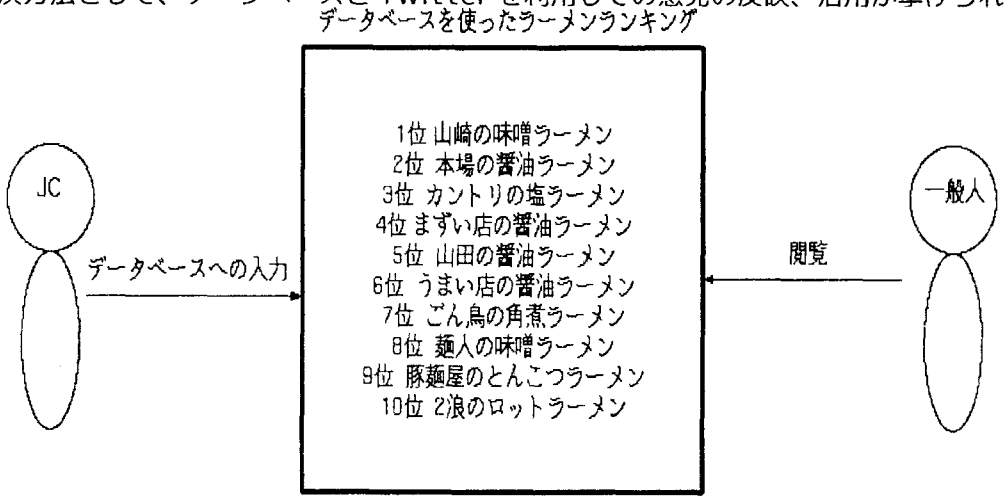


図 1:データベースのイメージ

3.具体的方法

インターネットを利用しての JC と市民が協力出来る仕組みによって、情報発信を目的とする。

・データベースの中に JC の調査と市民の投稿・口コミによる県内・市町村の○○ランキングを作成し、一般へ公開して広く知ってもらう。

・行事の際（祭りなど）に Twitter

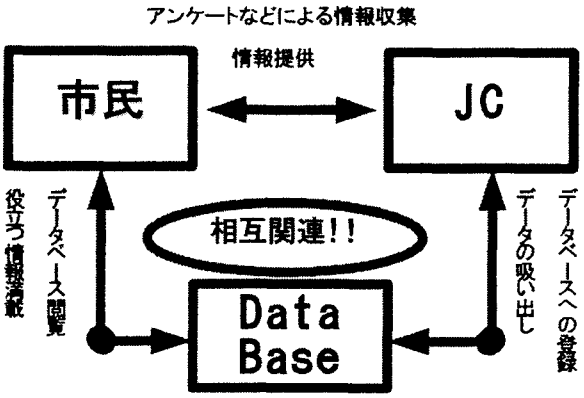


図 2:データベースを用いた相関図

を利用してのライブ中継を各地で行い情報共有を図る。

4.予想される効果

ランキングは市民の投稿・口コミによって作成されるため利権が絡みにくくなる。加えてデータベースに記録されていくため、いつでも閲覧ができる上に○○ランキングを容易に増やすことができる。

またTwitterを利用してのコミュニケーション範囲の拡大を狙い、市民への何かしらのイベントの呼びかけと情報の共有を行うことによって参加人数の増大が見込まれる。例として、花火大会のスタッフが現場の状況をリアルタイムで公開することによって、スムーズな誘導の実現・プログラムの確認が実現可能となる。

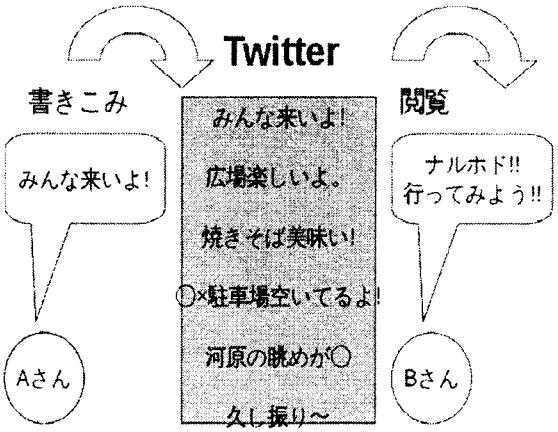


図 3:Twitterのイメージ

5.発信方法

Web,地元情報誌、公報を活用しての情報発信を行う。

6.事業名

みんなのための情報BANK

やまがた公益プロジェクト　Cチーム
http://yamagata.koeki-prj.org/

20100521

やまがた公益プロジェクト　Bチーム

1. 事業に至る背景
   - リサイクル・リユースで何かできないか。→　ペットボトルなど使い捨てものではなく、自転車など、次に使えるものを活用したい。
   - 駅や街にある放置自転車を解決し、利活用する。
   - 駅に自転車を置くと盗難される(東根駅)ので、レンタルなどがあれば常時活用する人もでてくるのではないか。
   - 酒田市の観光自転車が(獅子頭のついているもの)あまりかっこよくない。もっと使いたくなるようなデザインものをつくる。
   - 子どもを持つ親は成長の過程で何度も自転車 を買っている。使わなくなった自転車の処置に困っているのではないか。
   - 商店街でサロンを開いてみたが、地域の人たちはあまり街を歩いていない。地域を回遊させるにはどうしたらいいか。
   - シャッター街の空き家を紹介するのは山形大学(芸工大?)でやっているので、放置自転車で何かできないか。

2. 目的
   - 放置自転車 を利活用し、まちを回遊させるしくみをつくり、まちの魅力を発見しながら、循環型社会に貢献する。

3. 会場・場所・日時
   - 想定する場所は　酒田市
   - 冬以外の季節

4. 参加対象・参加員数計画
   参加者　：一般市民、観光客

5. 事業名

6. 内容

●どんなデザインにするか

・かっこいいデザイン
・獅子頭はいやだ
・子どもたちに色を塗ってもらう
・芸工大生にデザインして塗ってもらう。
・GPS をつける→盗難防止、そこからネットで場所を検索、加盟店舗に QR コードをつけて、携帯での情報発信にも参画させる。

●どうやって自転車 を集めるか

・ペイントするイベントに参加する人に、いらなくなった自転車の提供を呼びかける。
・大学にある放置自転車 を提供する

●デザインした自転車を使って、どうやって街を回遊させるか。

・山形銀行の各支店に置き場所にする。
・ＪＣメンバーの勤務先に自転車を置かせてもらう。
・行かせたい場所にルートを入れて、地図を作る。
・回遊するようなイベントを企画する。

7. 広告方法・その他

8. 予算

他団体との交流とネットワーク構築計画（案）

討議・協議

- ファイル名 ： 706-32K-1209K
- 事業名 ： 他団体との交流とネットワークの構築
- 職務分掌 ： 706-32 ： 未来の「やまがた」を創る他団体との交流、ネットワークの構築
- 委員会名 ： やまがた協働運動実践委員会
- 担当役員名・役職名 ： 副会長 ： 阿部秀顕 ● 確認日 ： 2010年1月25日
- 議長・委員長名 ： 委員長 ： 矢吹栄修 ● 確認日 ： 2010年1月25日
- 文書作成者名 ： Cチーム ： ● 作成日時 ： 2010年7月11日

トップ/事業要綱/事業概要/審議対象資料/前回までの流れ/上程日程/参考資料/事業予算

事業要綱

1. 事業実施に至る背景

青年会議所はこれまでさまざまな活動を展開してきているが、その活動の地域での認知度は、まだまだ「高い」とはいえないものがある。「明るい豊かな社会」の実現を目的として、地域で公益事業を企画運営している各地区の青年会議所 の活動をさらに広げていくためには、もっと市民に役立つ情報を提供していくことが必要となっている。

---

2. 事業の対象者

対外対象者：市民

対内対象者：やまがた公益プロジェクトCチーム(山形銀行・東北公益文科大学・ やまがた協働運動実践委員会)

---

3. 事業目的 （対外）

青年会議所が企画したイベントへの参加者を核に、青年会議所の活動を幅広くお伝えするとともに、市民(みんな)の意見を吸い上げ、活用していくしくみを構築する。

---

4. 事業目的 （対内）

青年会議所のイベントの周知を、さらに社会貢献できる形へと進化させ、東北公益文科大学学生の情報技術と学生の視点を取り入れるとともに、山形銀行の「あなたの話をもっと聞きたい」というマインドを表現する手段としての、三者の利点をそれぞれに活かせるような情報発信システムとする。また、多様な団体が協力してどのような事業展開ができるかを模索していく中で連携を深め、大きな気づきを得て、新しい公益事業への可能性へとつなげることを目的とします。

トップ/事業要綱/事業概要/審議対象資料/前回までの流れ/上程日程/参考資料 /事業予算

事業概要

1. 実施日時

2. 実施場所・会場

青年会議所各ブロック、または各イベント告知のホームページ

3. 参加員数計画並びに参加推進方法

予算総額　　0円

5. 外部協力者・協力種別

山形銀行　東北公益文科大学　※「やまがた公益プロジェクト」は三者合同主催の形をとります
UC　その他、大学のサークルなど

6. 引用著作物の有無　　無

7. 対外配布資料の有無　　無

8. 実施組織

やまがた公益プロジェクトCチーム
山形ブロック協議会　やまがた協働運動実践委員会　ならびに東北公益文科大学事務局　山形銀行地域振興部

9. 事業内容(目的達成のための手法説明)

1
1. 本年の工夫と期待される効果

これまで青年会議所のホームページはともすれば会員のための情報発信となっていた。それを他者のために、市民みんなに本当に役立つ情報を伝えるツールとして活用できるものとなれば、公益事業としての活動に深みを持つことにつながると考える。互いに豊富にもつものと不足しているものを提供し、協力して事業を行うことで未来の可能性を広げ、県内17LOMが今後の事業を行うネットワークの構築の一助にもなると考えます。